

紹

介

kouzashoukai

心、腎、脳を診る内科です。～シンボルマークできました。～

琉球大学大学院医学研究科 循環器・腎臓・神経内科学講座 (第3内科) 病棟医長 新里 朋子 (12期生)

同窓会の皆様、こんにちは。今回は講座紹介の機会を頂きありがとうございます。

私たち第3内科は循環器・腎臓・神経内科学の講座名が示す通り、「循環器」、「腎臓・高血圧」、「神経・脳卒中」の3つのグループで診療を行っています。専門とする主な臓器は心、腎、脳です。3つのグループに分かれていますが、各グループともに高血圧に代表される生活習慣病によっておこる血管の病気、動脈硬化を背景とした疾患の患者さんを診ること多いという共通点があります。専門とする臓器は異なっても、血管の病気を中心に診るという点で第3内科の3つのグループはつながっており、多方面に博識で面倒見のよい大屋祐輔教授の元、グループ間で連携して患者さんの治療に当たることも多い診療科です。

循環器グループは昨年7月に心臓カテーテル治療の第1人者である岩淵成志准教授を迎え、飛躍的にカテーテル検査・治療が増えました。6月から冠動脈血管内治療の新たな施設認定も得て、ますます充実した医療を提供できるようになっています。琉球大学病院は植え込み型補助人工心臓実施施設に認定されており、心臓移植を必要とする重症心不全の患者さんも受け入れています。心臓リハビリテーションでは医師・看護師・栄養士・薬剤師・理学療法士といった多職種でのチーム医療を行い、心臓血管外科との連携もさらに深まっています。心疾患だけでなく、肺高血圧症に対する血管治療にも取り組み成果をあげています。大変忙しいグループですが、今年度は3分の1を女性医師が占めて一番華やかな!?グループです。腎臓グループは血液浄化部の井関邦敏診療教授の元、腎臓生検やステロイドパルス治療、腹膜透析といった診療を積極的に行っています。腎臓は高血圧とも密接に関連した臓器のため高血圧の専門治療を行うとともに、高血圧をはじめとする生活習慣病の増加とそれに伴う脳卒中・心筋梗塞などの動脈硬化疾患で大幅に平均寿命が落ち込んでいる沖縄県の現状を打開すべく疫学研究や啓蒙活動にも力を入れています。

神経グループは神経変性疾患を専門にする渡嘉

敷崇先生が率い、脳卒中を得意とする崎間洋邦先生が若手の中心となって診療を行っています。神経内科は全国的に医者不足の傾向ですが、第3内科では今年の入局者5人中3人を占める若手一番人気!のグループです。CT/MRIだけでなく頸動脈エコーや経食道心エコーも積極的に行い、確かな診断力で脳卒中の診療に当たっています。変性疾患の分野でも筋電図、筋生検といった検査を行っています。重症度の高い疾患が多く、専門医も不足している中、当科で若手神経内科医が確実に増えているのは大変誇らしいです。

第3内科は脳卒中、心筋梗塞などの急性疾患のみならず、腎不全、心不全、変性疾患などの慢性疾患の患者さんも多い内科で、看護師さんをはじめコメディカルスタッフと十分に連携して日々の診療を行っています。診療の外では、プロ野球観戦、ビアガーデン、ビーチパーティと看護師さんも一緒に盛り上がる楽しいイベントも毎年恒例で、医局でのすき焼きパーティで1年を締めくくります。

今年はその第3内科を表すようなシンボルマークができました。なんと今年度入局した後期研修医の5人の先生方が自らデザインし、4月1日には揃いのスクラブを作ってお披露目してくれたのです! 3の数字に脳・心・腎をあしらってくれたこのマーク、数字を人に見立てて3つのグループが繋がっているように見えませんか? ただいま医局員でスクラブを追加発注中。揃って着用している姿を病院内でも見かけるようになるかもしれません。

